

報道関係者 各位

2021年4月1日
公益財団法人日本デザイン振興会

「2021年度グッドデザイン賞」応募受け付けを4月1日(木)より開始 国内外問わず幅広い分野のデザインが対象、5月26日(水)まで受け付け

公益財団法人日本デザイン振興会(会長：川上元美、所在地：東京都港区)は、4月1日(木)より、主催事業である2021年度グッドデザイン賞の応募受け付けを開始します。応募はグッドデザイン賞のウェブサイトにて受け付け、締め切りは5月26日(水)です。今年度の受賞結果は、10月20日(水)に発表します。

グッドデザイン賞は、1957年から続く日本を代表する世界的なデザイン賞として、毎年国内外の企業や団体、デザイナーなどが多数応募し、これまでに多くの優れたデザインが受賞してきました。2020年度は、4,769件の応募を対象に審査を実施した結果、1,395件が受賞しています。

引き続き社会がコロナ禍にあり、「ニューノーマル」や「ポストコロナ」を見据えた新たな動きも見られる中で、これからの社会に向けた提案や、人々のより良い暮らしの実現を目指すデザインの応募が期待されています。



グッドデザイン賞ロゴマーク「Gマーク」



2020年度グッドデザイン大賞
自律分散型水循環システム [WOTA BOX]



2020年度大賞受賞風景

審査委員長・副委員長は、引き続き安次富隆氏・齋藤精一氏に

2021年度の審査委員長・副委員長は、昨年に引き続き、安次富隆氏(プロダクトデザイナー、ザートデザイン取締役社長)と、齋藤精一氏(クリエイティブディレクター、パノラマティクス主宰)が務めます。プロダクトをはじめ、建築、コンテンツ、ビジネスモデルなど、多様化が進むグッドデザイン賞の審査において、異なる専門分野を持った正副委員長を中心に、総勢約90名の審査委員がさまざまな視点から応募対象を読み解きます。

応募対象とその条件

商品・建築・アプリケーション・ソフトウェア・コンテンツ・プロジェクト・サービス・システムなど。日本国内外、一般用/業務用は問わない。

2021年10月20日(水)に受賞発表が可能なこと。

2022年9月30日(金)までに購入または利用が可能なこと。

応募資格：応募対象の事業主体者、およびデザイン事業者。

応募費用：審査費、出展費など段階に応じた費用が発生。

応募方法：グッドデザイン賞ウェブサイト(www.g-mark.org)の応募専用ページで、5月26日(水)までに登録。

主なスケジュール

4月1日(木)～5月26日(水)：応募受付期間

6月9日(水)～9月1日(水)：一次審査、二次審査期間

10月20日(水)：受賞発表 [グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100、グッドフォーカス各賞、グッドデザイン金賞、ファイナリスト (大賞候補)、ロングライフデザイン賞]

11月2日(火)：オンライン受賞祝賀会、大賞選出会、グッドデザイン大賞発表

10月20日(水)～11月21日(日)：グッドデザイン・ベスト100展 (一般公開)

賞の種類と受賞プロモーション

グッドデザイン賞は、「グッドデザイン賞」および、特別賞の「グッドデザイン大賞」「グッドデザイン金賞」「グッドフォーカス賞」で構成されます。

グッドデザイン賞受賞対象のうち、特に優れた100件は「グッドデザイン・ベスト100」として選出されます。このグッドデザイン・ベスト100より「グッドデザイン金賞」「グッドフォーカス賞」「グッドデザイン大賞候補 (ファイナリスト)」が選出され、「グッドデザイン大賞」はグッドデザイン大賞候補の中から決定されます。



受賞したデザインは、公式ウェブサイトで全点掲載するほか、国内外で開催する展示会や見本市、販売イベントなどでも紹介を行います。また、ベスト100に選ばれたデザインについては、10月20日(水)から東京ミッドタウン(六本木)で開催するグッドデザイン・ベスト100展で、一般に向けて公開します。

開催概要

- ・主催：公益財団法人日本デザイン振興会
- ・後援：経済産業省、中小企業庁、東京都、日本商工会議所、日本貿易振興機構(JETRO)、国際機関日本アセアンセンター、日本経済新聞社、NHK、World Design Organization (一部に後援予定を含む)

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞への応募受け付けも4月1日(木)より開始

私たちの生活を築き、これからも変わらずその役割を担い続けてほしいデザインに贈られる「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」への応募も、4月1日(木)から受け付けを開始します。なお、この賞には企業やデザイナーによる応募のほか、商品のユーザーなどからの一般推薦も可能です。

***本リリースに記載のスケジュール、名称などは今後変更される場合があります。**



参考／グッドデザイン賞について

1957年に開始された日本を代表するデザイン賞。商品をはじめ建築、各種のアプリケーションやソフトウェア、デザインを活用したプロジェクトや取り組みなど、生活環境を構成する有形無形のさまざまな対象に贈られる。「社会を前進させるデザイン」という考え方の下、受賞デザインに関する展示や出版、各種のイベントなど多彩なプロモーションを展開することで、受賞者の価値の向上に加え、社会へのデザインの普及を促し、デザインの可能性を高めることに一貫して貢献している。そのためグッドデザイン賞は84%の認知率*を誇り、シンボルマークの「Gマーク」も広く親しまれている。これまでの累計受賞数は50,000件以上となる。

*日本デザイン振興会の2020年度インターネット調査による。

参考資料：

2021年度グッドデザイン賞 審査委員長・審査副委員長のご紹介

審査委員長：安次富 隆



プロダクトデザイナー
有限会社ザートデザイン 取締役社長

ソニー株式会社デザインセンターを経て、1991年に有限会社ザートデザインを設立。2008年より多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン教授。情報機器や家電製品などのエレクトロニクス商品のデザイン開発、地場産業開発、デザイン教育などの総合的なデザインアプローチを行っている。

希求と交動

いま、私たちはコロナ禍の中に居ます。その中で、誰もが人類は大きな転換期に直面していると感じているのではないのでしょうか？
多くの人々が、災難が過ぎ去るのをじっと待つのではなく、これまでの人類史を振り返り、内省する中から、知恵や技術を動員し、新たな未来を切り拓くことを願い、望んでいます。そのような、人々の希求こそが、これから先の人類へと導く原動力になります。

希求という言葉には、祈るような切実な気持ちが籠められています。希求しているのは人ばかりではありません。これまでも、人や社会、自然が希求していることはありました。しかし、声高な要求や欲求の翳に隠れて見えづらかったのだと思います。奇しくも私たちの活動が、なかば強制的に制限されたことによって、一つひとつの希求が鮮明に見えるようになりました。いままさに、その静かに希う（こいねがう）気持ちを丁寧に掬い取ることが求められているように思います。そのために、私たちが積極的に交わって感じ合う、交感することが大切なのです。

それにより得られた様々な希求を交え、達成へ向けて動かす、いわば「交動」が、これからのデザインの行為と形象として表れてくるに違いありません。グッドデザイン賞ではそこに目を向けてキャッチしたいと考えています。デザインが発する未来への提起にどれだけ共感し応援できるかが、グッドデザイン賞で議論すべきポイントです。デザインという具体的な存在を通して応募者と審査委員の対話を重ね、お互いの理解を深めて見出されるグッドデザインの総体は、次の時代を拓く力強いメッセージとなり得るのではないのでしょうか。

人類繁栄の背景には、禍いを福に変えてきた確かな歴史があります。禍いから学び、次のステップに進むための知恵と技を人は持っているからこそ、デザインが生まれるのだと思います。問題を解決するだけでなく、新しい価値を創造していくことがデザインの使命です。これからの福とは何なのか？そのためには何をどうデザインすべきなのか？多種多様なデザインが会合するグッドデザイン賞を、そのようなテーマを論じ合える場としたいと願っています。ぜひ、多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。

安次富 隆

審査副委員長：齋藤 精一



クリエイティブディレクター
パノラマティクス主宰

コロンビア大学建築学科で建築デザインを学び、2000年からニューヨークで活動を開始。その後、フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006年にライゾマティクス（現：株式会社アブストラクトエンジン）を設立。現在では行政や企業などの企画や実装のアドバイスも数多く行う。

交動と希求

ものごとを創造できる人間は、
社会にとってどんな役割を担うべき存在であるのか？
いま人間に何ができるのか？
具体的に世界をどう変え、社会をどこに向かわせるべきなのか？

我々の生活や世界を変え続けている新型コロナウイルスとの闘いから、何を学び、何を考え、様々な苦しみや悲しみを乗り越えて、どのようにその経験を受け継いでいくのか？
多くの災害で苦しんだこと、悲しんだこと、今なお続くそこからの復興に対して何ができるのか？
身の回りで、遠い世界のどこかで困っている人たちに対して何をすべきなのか？

沢山の答えのない疑問、「？」が私の中でも次々と生まれています。それは、デザインという創作と社会実装に関わる多くの人の中でも同じようにうごめいていることと思います。

デザインは、小さな力を確かなうねりに変え、社会をより良く変える新しいものごとを生み出して行きます。
グッドデザイン賞は2019年に「共振」、2020年に「交感」を、それぞれテーマにしてきました。これらのテーマを通して、私たちが他者や様々なものごとと積極的に関わり、行動を起こす中から生まれてくるデザインに目を向けてきました。そして、モノのデザイン・コトのデザイン・プロセスのデザイン・意識のデザインなど沢山の素晴らしいデザインに出会い、それらが少しずつ確かなうねりになる瞬間も見してきました。
本年度のテーマの一つである「交動」は、さらに広い範囲で人々の間に交感が起こり、それが確かなうねりへと育つよう、「希求」はさらに大きなうねりを起こすために人類が目指すべき方向＝アウトカムのデザインを示しています。

デザインは、本来希望に満ちているものです。モノやコトを創造できる人間は、何らかの方法で様々な問題を解決しようと志しているはずですが、しかし、実践へと踏み出そうとしたとき、その拠り所となる思想や哲学にまだばらつきがあるように感じます。地球環境改善への取り組み、幸福の定義、テクノロジーに代表される新しい手法との接し方などは、業界や分野、企業や個人といったフレームごとに、お互いに異なったまま押し量られています。

これまで広く多くのデザインを横断的に見続けてきたグッドデザイン賞の役割として、審査を通じて、現時点で人類や社会が望む、進むべき方向を見出せるよう交動を進めるとともに、私たちが切にお願い願う、希望の持てる方向をも示せるように貢献していきたいと考えています。
本年も沢山のグッドデザインに出会えることを心から楽しみにしております。